

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 1 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Suicide and alcohol psychoses in Belarus 1970-2005. ベラルーシにおける 1970-2005 年の自殺とアルコール精神病	
執筆者	
Razvodovsky YE.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Crisis. 2007;28(2):61-6.	
キーワード	
自殺、アルコール精神病、ARIMA time series analysis、ベラルーシ	
要 旨	
<p>背景: 飲酒と自殺の関係はよく議論されている。この研究は、飲酒と自殺の関連について文化・社会的側面での重要なエビデンスを示ものである。</p> <p>目的: スラブ人文化の中で飲酒量が自殺率に与える全体的な影響を評価する。</p> <p>方法: 970年-2005年のベラルーシ(旧ソ連)における自殺とアルコール精神病の傾向を ARIMA (Autoregressive integrated moving-average) time series analysis を用いて調査した。(ソ連におけるアルコール消費量の信頼できる統計がないので、アルコール精神病の発症をアルコール消費量の指標として用いた。)</p> <p>結果: 自殺率とアルコール精神病罹患率の間に強い関連が示された。</p> <p>結論: 今回の研究で、先行研究で示したアルコールと自殺が強く関連するという結果を再確認した。アルコールはソ連時代のベラルーシの変動する自殺率の要因であったことが示唆された。</p>	